



## 駒ヶ岳・大沼森林ふれあい推進センター

駒ヶ岳・大沼森林ふれあい推進センターでは、教育関係機関での森林環境教育や森林教室の取り組み等への支援を行っていますので、今年度の活動の一部を紹介します。

### ●屋内で樹木博士認定会

平成30年7月7日、函館市末広町の放課後児童クラブでは、あいにくの雨模様のため屋内に樹木の枝葉を持ち込んで樹木博士認定会を行いました。



屋内で樹木博士認定会

参加した28名の児童は、11種類の樹木の葉の特徴を覚え、手触りや臭いなどを体感した後、樹種の識別試験に挑戦しました。樹名を思い出すのに苦労する児童もいましたが、認定書が授与されると、みんな大喜びで歓声を上げていました。

### ●中学生が職場体験

8月28・29日の両日、青森県風間浦村立風間浦中学校の女子生徒が、自ら当センターでの職場体験を希望して一人で訪れました。

初日は、当センターの概要や活動内容、森林の公益的機能等を学習した後、カミネツコンを組み立てて広葉樹の苗を植え込む作業と、初めての力ナ掛けの体験で箸を製作しました。

二日目は、多様性のある森林への再生に取り組んでいる吉野山国有林へ行き、前日に苗を植え込んだカミネツコンを設置して植付を完了し、下刈作業ではミズナラなどの植栽木を鎌で傷つけないように、慎重に雑草等を刈り払っていました。

西大沼国有林の樹木博士認定常設コースでは、色々な樹木の特徴等を学習してから、樹種の識別試験に挑戦しました。初めて見る木もありましたが、全問正解で初段の認定書が授与されました。

カリマ国有林では、平成16年の台風による森林被害の状況や、その復旧に地域のボランティア等が協力して森林づくりに取り組み、森林の再生が進んできている状況等を学びました。

軍川国有林では、人工林の保育間伐作業で、手鋸を使用して受け口、追い口を切ってトドマツを伐採し、枝払い、玉切りまでを体験しました。



立木の伐採体験

「初めての体験ばかりで楽しくて、樹木や森林・林業について理解が深まりました。今ある森林は、多くの人達の手によって大切に育てられてきたことを学び、この体験を自分の将来や進路の参考にしたい。」と感想を

述べていました。

### ●身近な樹木を観察

函館市立駒場小学校には、開校当時に地域住民等の協力でブナやミズナラなど40種類以上の樹木が植栽されており、身近な樹木について知識を深めてもらおうと学校運営協議会の提案で、10月26日に2年生35名、27日には1年生32名が校庭の色々な樹木を観察して回りました。

児童は、樹木の葉や幹や種子の特徴、ブナは北海道では道南にのみ自生していることなどを聞き、興味津々で触れたり臭いを嗅いだり、ホオノキの30cm以上もある大きな葉と真っ赤な果実にくぎ付けになっていました。



校内の植物観察